

第1班 グループ名：Goto と6人のサムライ

地域や組合員が抱える問題の現状分析

高齢化と後継者

- ・農業後継者がいない。
- ・JA離れ（次世代）、販売、各種事業。
- ・組合員の世代交代が進まない。
- ・組合員、中央会の立場から農業後継者の不足。
- ・中央会の立場から 組合員の減少、特に正組合員。
- ・漁連では組合員の減少。
- ・組合員の高齢化、後継者（担い手）不足、遊休農地の増大。
- ・利用組合員さんがYBと比べると年齢が高い。

組合員の収入

- ・組合員の立場 農業収入の減少。
- ・販売価格の低迷、農業収入（収益）の減少、再生産意欲の低下。
- ・農家組合員の所得が向上していかず、連合会のあり方や事業について批判を受ける。
- ・漁連 魚価の低下、生産者の手取り消費価格の1/4。
- ・漁連 複雑な流通。
- ・協同組合メリットが見えない。

組織規模の拡大の弊害

- ・全国組織、県組織、単協と業務などで重複している部分がある等、組織のスリム化が図られていない。
- ・事業連携と独自性 事業効率と存在意義が見えない。
- ・組織が大きい、末端の声が届かない、聞かない。
- ・農家組合員の集まる場所（ふれあい）が少ない。支店、施設などの統廃合などサービス低下。
- ・組合員会議、座談会などの出席率が悪い。

他との競合共存

- ・地元大型店との共存提案。
- ・他生協との競合と共存（利用者拡大）。
- ・自分の仕事がスーパーマーケットの為にヨークベニマル、いちいなどのスーパーとの競争になる。負けてしまう。
- ・競合のなかでコープらしさが売り場に表現できていない。
- ・JAの資材は高い。生産。生活。
- ・漁連 価格競争と員外利用。

教育

- ・職員への生協人としての在り方をどう説くか。
- ・先住者、組合員への教育の減少。
- ・自分の取り扱う商品の知識が十分でない。

- ・クレーム対応力をどのように向上させていくか。

地域貢献

- ・食以外での地域貢献の仕方をどうしていくのか。
- ・生産者、商工業者などの地域との協調が少ない。地域に役立っているのかの疑問。
- ・子育て、孫の教育、子どもたちが安心して生活できる地域づくり。
- ・少子化、高齢化、介護の問題（親、自分）。

食の安全

- ・多様化する利用者のニーズへの対応力の問題。
- ・食の安全とは、商品事故、クレーム対応、クライシス管理。
- ・安全安心な食べものを組合員や地域住民に安価に供給するにはどうしたら良いか。
- ・餃子事件後の信頼回復から今後の提案をどうしていくか。

その他

- ・漁連 水産資源の減少⇒漁獲努力量が大きすぎる。
- ・農産部門のため地場野菜の豊富な夏～秋にかけて売上げが落ちてしまう。
- ・E S面の強化（特に労務管理面）。
- ・J Aグループの将来予測について信用共済に依存する傾向が続き、販売・購買・収益も更に赤字になる見通しになっている。

各協同組合の課題は何か？問題の抽出《食の安全を通じた地域貢献》

<テーマの設定理由>

- 1.生産者と消費者の距離が遠くなっている。（J A組合員と生協組合員）
 - ・資産、設備が地域に開放されていない。
 - ・生産者、消費者交流の場が不足している。
- 2.地域に選ばれる組織になる「信頼関係」。
- 3.食の安心・安全（食品事故からの信頼回復後）

テーマ設定のベース意見

- ・食以外のサービス提案をすることで（生活が圧迫されるものを提案）、生協があるから暮らしが良くなったと評価されることで地域への貢献となる。
- ・組合離れに関してJ Aがこれまで組合員に対するアプローチが充分だったのか。
- ・食は生きるための基本、今や食の安全安心は当たり前、生産側での対応。
- ・地産地消。直売所、学校給食（地元企業との連携）。食育。
- ・各々の協同組合の組合員・顧客の定義が違う。衣食住1番切実な問題。フードマイレージ。
- ・資産の有効活用で地域貢献が不十分。システム。施設。インフラ。
- ・地域への役立ち。高齢者への拠り所。事業活動を通して。
- ・生産活動を通じて地域経済に貢献すると共に地産地消の促進により食の安全を確保する。
- ・食の安全。自給率向上⇒国産⇒県産（地産地消）
- ・コープのお店がスーパーマーケット化している。

- ・専従職員が組合員活動を知らない。職員と生協運動が分離している。
- ・生産側から食に対しどんな情報が発信できる？ 発信していく。
- ・地域から選ばれるJA事業所になるためには「信頼」。
- ・食と農に関し地域住民（組合員・利用者・消費者）に何を還元できるのか。
- ・食品事故、偽装が発生している中、安心安全のコープから餃子事件が発生してしまった。
- ・食の安全安心、一連の食品問題から消費者ニーズが安心安全が見える流通の食品に変わったのでは。
- ・4つの協同組合がネットワークを作ればよい案が出そうだから絆塾の目的、ネットワーキングする。
- ・協同組合7原則 地域社会への関与（一番新しい原則で大きな課題）
- ・生産者との交流の場を多く設け距離を近くする。

☆何が問題かどうしたら良いか

- ・情報の開示が不十分。
- ・トレーサビリティの指導（生産者側組合員の理解と強力）
- ・消費者の声、ニーズが生産者へ届かない。（顔が見えない）
- ・生産者の思いが消費者へ届かない。（顔が見えない）
- ・組合活動に参加率が低い。
- ・設備を共有していない。
- ・安全安心なものは高価。
- ・JA直売所は人気だが野菜中心。
- ・高齢者が1箇所で購入できる場所。

実践の具体化・解決策

各組合員同士のネットワークづくり

協同組合カップ（ゲートボール、バレーなど）

設備の共同利用

生産者 技術者の人材バンク化

産地見学交流

組合と地域の信頼関係

情報の共有化

地域住民の声を聞く（出向く、アンケートなど）

文化活動の共同開催

食の安心・安全

共通の商品開発

直売所の複合施設～安心・安全な品物を安価で提供～

地産地消

第2班 グループ名：4ピース

地域や組合員が抱える問題の現状分析

組合経営の優先

- ・組合を利用したくても思うように利用できない。例えば店舗の統合などで身近でなくなってきた。
- ・経営優先のJA経営。
- ・部門ごとの縦割り意識による弊害。
- ・広域合併によるサービスの低下。非採算部門が削られていく。
- ・働く職場の安定した経営。雇用確保。
- ・組織のための組織や組織のための構成員になっていないか。

組合員の高齢化

- ・財布の中が苦しい。年齢層が高い。
- ・組合員の高齢化。組合員の減少。組合員活動の弱体化。出資金の減少。
- ・実質経営者の高齢化。
- ・組合員の高齢化による耕作放棄地の増加。でも集落営農には参加したくない、財布の共有化がいや。

組合員の意識の低下

- ・協同組合意識の希薄化。
- ・リーダーの不在（特に経営層）。
- ・組合員が協同組合としての意義や理念を理解しづらい?していない?⇒民間企業との区別があいまい。
- ・生協と他のスーパーは何が違うの?何か良いことあるの?
- ・生協に対する信頼。
- ・協同組合の良さを実感できない。
- ・JAの組合員は自分が組合の主体者としての意識・認識が弱いのでは。

信頼の低下

- ・食に対する不安（安全性）。
- ・生協として理念の象徴であるPB商品（COOP商品）への信頼の低下⇒餃子事件に端を発したものの。

農業経営の変化

- ・生産コストと価格形成に関する構造的問題に関するジレンマ。
- ・経営者としての意識と経営能力が低い人が多いのでは（農畜産業）
- ・農作物の買い取り価格の値下がり（特に米）。
- ・農産物の再生産ができない。⇒肥料・原料価格の上昇、生産物価格の低下。
- ・自分の労働に対する価値評価の低さ。
- ・収入の減額。
- ・物価高の上昇。

各協同組合の課題は何か？問題の抽出《組合員意識の低下》

- ① 組合員の世代交代によるもの。
- ② 組合理念の学習機会がない。
- ③ 事業利用による優位性がない。
- ④ 経営の効率化と組合員の要望に対する組合の対応。
- ⑤ 後継者に対する組合活動への参画運動不足（リーダーの不在）。
- ⑥ 組合員ニーズの変化。

実践の具体化・解決策

- ① 組合員の世代交代。
 - ・食農教育の導入によってJAに組合員を結集させる。感動、新鮮さ楽しさを与える。
 - ・協同組合間協同により新たな事業展開。
- ② 組合理念の学習。
 - ・組合の役職員が、まず理解を深める。
 - ・そして日頃からの情報提供を心がける。
- ③ 事業利用の優位性。
 - ・組合独自の付加価値をつける。
 - ・ブランドの強みを最大限に発揮。
- ④ 組合員ニーズへの対応。
 - ・総合渉外員の配置。
 - ・TAC（出向く営農指導）の導入。
- ⑤ 協力組織の育成
 - ～リーダーを育成するための取組み～。
 - ・イベントの参画誘導。
 - ～子供をまきこんだ活動～
 - 先進事例に学ぶのも良い。